

# 第11回 地域肝炎治療コーディネーター 教育セミナー



現場からの声

→

進歩を遂げた肝炎治療を届けるために



## こんなに変わった！C型肝炎治療

大分医療センター 消化器内科 山下 勉

ここ1～2年の間にC型肝炎の治療はインターフェロンを中心とした治療からインターフェロンフリーの内服薬のみの治療に大きく変化した。

インターフェロンフリーの内服治療はこれまでの治療と比較し、副作用が少なく、抗ウイルス効果は高いといわれている。当院でインターフェロンフリーの治療を導入した症例を紹介する。

現在1型のC型肝炎ウイルスに対する治療薬としてはダクラタスビル・アスナプレビル、ソホスブビル・レジパスビル、オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビルの3種類があり、耐性ウイルスの有無や心疾患の有無、腎機能障害の有無等を考慮し薬剤を選択している。2型についてはソホスブビル・リバビリンのみである。

いずれの薬も抗ウイルス効果は良好で、問題となるような副作用もほとんど認められていない。今後の課題として、透析患者への治療や非代償性の肝硬変の方への治療、また、治療後の発癌の問題などがあげられる。

## 今こそ、たたけ！ 肝炎ウイルスと肝炎シールの意義について

大分大学医学部消化器内科 本田浩一

B型・C型慢性肝炎ウイルスに現在感染している者は、全国で合計 300-370 万人と推計されており、国内最大級の感染症です。平成 22 年に肝炎対策基本法が制定され、肝炎ウイルス無料検査や治療助成制度が始められましたが、検診を受ける者が少ないことや、ウイルス検査が陽性であっても適切な治療に結びついていないことが問題となっています。

大分大学における C 型肝炎経口抗ウイルス薬治療者へのアンケート調査から、大学病院で治療を受けた患者さんの多くは、かかりつけ医あるいは大学の主治医から勧められて、治療が導入されているという状況が明らかとなりました。医師から治療についての説明を受けたにもかかわらず、治療前に不安を感じている患者さんが多いということもわかりました。これらのことより、肝炎患者さんが適切な治療を受けるためには、肝炎に関する情報を得るだけでなく、医師から治療に関する説明を受けることが重要と考えられました。

現在、大分県では大分市、別府市、中津市において C 型肝炎抗体検査陽性者に対し、「たたけ！肝炎」リーフレットを郵送し、医療機関への受診や肝疾患相談センターへの相談を呼びかけています。また、大分県内の全ての診療所に C 型肝炎治療患者説明用「たたけ！肝炎」リーフレットを配付しました。肝炎検査を受けたことがあっても、自身の肝炎検査の結果について知らない人が多いことも、大きな問題点と考えられます。そのため、薬剤手帳添付用肝炎シールを作成し、今後、薬剤師会と連携して患者さんに配布していく予定です。

現在、B型肝炎、C型肝炎とも副作用のほとんどない薬で、高率に治すことができるようになりました。治療を要する人が適切な治療を受けることができるように、今後も継続的な取り組みが必要です。